平成１５年４月１７日

東京風ぐるま見学会に参加して

堀尾哲一郎

東京都環境局が主催する東京臨海風力発電所見学会に参加した。１３時３０分東京テレポート駅前から環境局がチャーターしたデイーゼル車規制適合車に乗って第二航路海底トンネルを通って中央防波堤内側埋立地の風力発電施設へ向かった。中央防波堤内側埋立地には、中防合同庁舎、流動床式焼却炉、ＰＥＴ処理施設、粗大ごみ破砕処理施設、不燃ごみ処理センターなどがあり、その一角に風力発電施設はあった。タワーの高さ 44m、羽根の長さ 26m合計 70mの高さで２０階建てのビルと同じくらいの高さだそうである。今日は風速 8.4m/秒、発電量 800ＫWであった。風速４ｍ／秒から発電が可能で、秒速１６ｍ／秒で最大出力 1700ＫWとなるという事である。羽の方向や角度は風向・風速に合わせて自動的に調整され、秒速 25m／秒以上では停止する。設備稼働率は約 16%で、約８００所帯分の電気（年間２５０万ＫWH）を発電し、全量、約１１円／ＫWHで東京電力へ売電している。企業主体は電源開発株式会社と豊田通商株式会社で設立した（株）ジェイウインド東京であり、東京都から土地を無償で借り、固定資産税も免除してもらい運営している。風車の真下に立っても思ったほど大きいとは感じなかった。風を切る音もスースーと言う程度で、数年前、スウェーデンで見たときのゴーゴーと言う音からは大分改善されているように感じた。続いて、中潮端を渡り、中央防波堤外側埋め立て処分場（その 2）に新設された風力発電を見る丘へバスで移動した。ここは４月に出来たばかりで、植樹もされており小さな公園のようになっていた。ここからは水路を隔てて江東区方面を背景に２基の風車を一望に出来、羽田空港へ発着する航空機が数分毎に通過し、すばらしい眺めであった。公園には雨水を利用した池もあった。バスは更に南に進み、現在埋め立てが進行中の新海面埋立地などを見学し、中防合同庁舎でアンケートを記入して東京テレポートへ戻り、見学会は終了した。

今回は風力発電の見学のみならず、現代社会の快適で便利な生活が、大量生産、大量消費、大量廃棄の上に成り立っており、ライフスタイル変更なくして、地球環境破壊を防ぐことが出来ないことを痛感した。バブル崩壊と市民意識の向上により廃棄物処分量が減少し処分場の寿命が多少延びたと言う説明を聞き、少しは安心したが、根本的解決にはほど遠いと言うのが処分場に立って感じたことである。

現在、東京電力の発電量の 40%を占める原子力発電が全て停止しており、夏場の需要のピーク時には停電の危機も予想される。我々国民は電力需給について自分のこととして議論すべき時である。

風車設置敷地内からみた風車（中央防波堤内側）

風車展望の丘から見た２基の風車（中央防波堤外側）